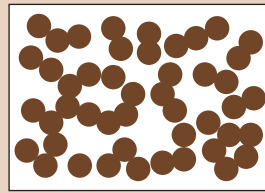




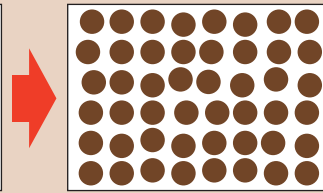
液状化の起こりにくい街 山万ユーカリが丘

<本当に恐い液状化現象>

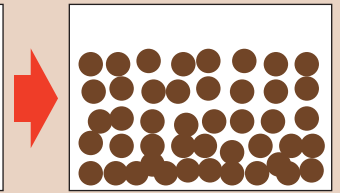
液状化現象とはもともと地盤に多くの水分を含むゆるい砂質地盤におこる現象で、ふだんはゆるいなりにも砂粒子同士がくっついて地盤をつくり建物を支えているが、地震によって砂と水分が分離して水が地面まで上がってくる現象をいいます。埋め立て地でまだ比較的新しく締め固まっていな土地、川や海に近い比較的地盤のゆるい土地に起こりやすいと言われています。



通常の地盤
砂がお互にくっついている



地震発生
揺さぶられて砂の粒同士がバラバラになる



液状化発生
バラバラになった砂の粒が下に沈んで水が地面に噴き出る



液状化現象により土砂が噴出した住宅街の様子



液状化現象により道路が損傷している様子



液状化現象により傾いた交番

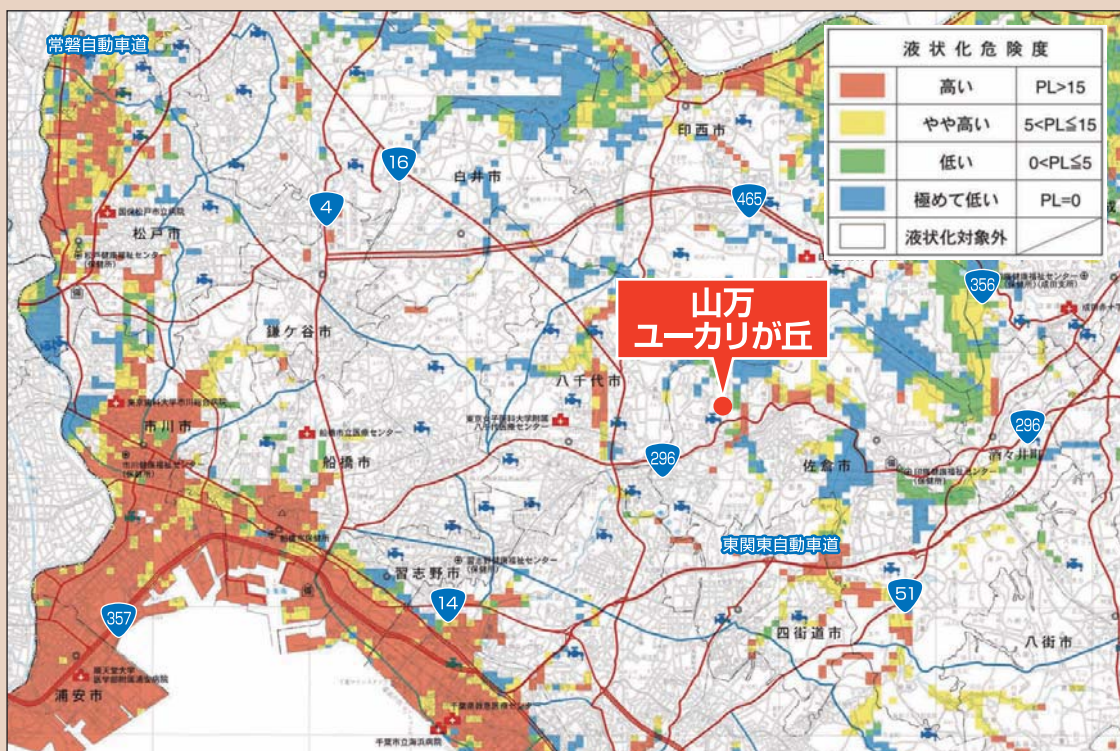
液状化被害は毎年のように報告されており、1964年の新潟地震、1995年の阪神淡路大震災を始め、2000年の鳥取県西部地震、2004年の新潟中越地震、2005年の福岡県西方沖地震、宮城県沖地震、2007年の能登半島地震、新潟中越沖地震、2011年の東日本大震災などで大規模な液状化現象が見られました。特に東日本大震災においては、新浦安や海浜幕張などの沿岸部だけでなく、千葉県我孫子市や埼玉県久喜市など内陸部でも多くの被害が発生致しました。

液状化現象が発生すると道路が水浸しになり、マンホールや下水管が押し上げられたり家が傾くだけでなく、断水や下水道の使用制限、ガスの供給の停止などライフラインの途絶が起こっています。

千葉県の液状化マップを見ると、ここユーカリが丘の住宅地区では液状化の可能性が低いエリアであることは一目瞭然。安心して暮らすには、まず被害に遭いにくいと思われる地区に住むことが一番の防災手段です。

■液状化マップ (東京湾北部地震ケース)

※千葉県ホームページより抜粋
※平成19年度に県が行った「千葉県地震被害想定調査」等の結果に基づいています。



ユーカリが丘の分譲地は、液状化対象外となっております。